

満足不相応の欲を持たず 満足を知ることが幸せへの近道

ふくいせいしう 1948年生まれ、石川県出身。早稲田大学文学部心理学科卒業後、立正大学院社会学科修了。日蓮宗宗務院勤務を経て、1979年より立像寺住職に。2001~2007年まで日蓮宗布教院講師、2012~2015年まで布教院主任講師として指導にあたる。立像寺境内にある、すみれ保育園の園長も務めている。立像寺／石川県金沢市寺町4-1-2

水前寺清子さんによると、「お父さんは、立正大学で修行しながら、立正大学の大学院に入学。その後は日蓮宗宗務院（教務部）に5年勤務しました。私は31歳のとき、父ががんで余命半年の宣告を受けました。私は金沢へ戻りましたが、父は半年後に亡くなってしまった。檀家のことを何も教わらないまま、私は住職になりました。当初は肩ひじ張つて突っ走っていましたが、幸いに檀家さんの協力もあり、住職として経験を積むことができました。



日蓮宗立像寺住職
福井清周さん

第76回

私は父が住職を務める金沢のお寺に生まれ育ちました。小学6年生で得度はしたもののお坊さんにうかと考えていました。大学受験のとき「早稲田大学に行きたい」と父に言つたら「ああ、そうか」。失敗しても「浪まで」と条件を出されました。幸い一浪で早大へ進学することができました。

大学卒業を控え、「さてどうしようか」というとき、兄が急逝。私に「お坊さんになる」というお鉢が回つてきました。東京のお寺で修行しながら、立正大学の大学院に入学。その後は日蓮宗宗務院（教務部）に5年勤務しました。私は31歳のとき、父ががんで余命半年の宣告を受けました。私は金沢へ戻りましたが、父は半年後に亡くなってしまった。檀家のことを何も教わらないまま、私は住職になりました。当初は肩ひじ張つて突っ走っていましたが、幸いに檀家さんの協力もあり、住職として経験を積むことができました。

「もっと」と欲を出しすぎるといふのは、人間はすべての欲を消すことにはできません。実はお経には「欲をなくしなさい」と言も書いてありません。そこには「貪欲をなくしなさい」とあります。では欲と貪欲はどう違うのでしょうか？これはお経にも書かれていません。その分別は自分で考えてはならない。

ただ、「飲食、衣服、臥具、資生の物を少欲で生きなさい」とはあります。飲み物・食べ物、着る物、布団、生きていくために最小限必要な物、これらは少欲で生きなさい、と。つまり「少欲知足」。「私はこれで十分」と少ない欲で満足する、これが仏教的生き方です。

幸せは千差万別ですが、自分にとって「これで十分」という線を引くことが大事。とてもむずかしいのですが、分相応をわきまえることができるようになります。

寺に生まれ育ちました。小学6年生で得度はしたもののお坊さんにうかと考えていました。大学受験のとき「早稲田大学に行きたい」と父に言つたら「ああ、そうか」。失敗しても「浪まで」と条件を出されました。幸い一浪で早大へ進学することができました。

大学卒業を控え、「さてどうしようか」というとき、兄が急逝。私に「お坊さんになる」というお鉢が回つてきました。東京のお寺で修行しながら、立正大学の大学院に入学。その後は日蓮宗宗務院（教務部）に5年勤務しました。私は31歳のとき、父ががんで余命半年の宣告を受けました。私は金沢へ戻りましたが、父は半年後に亡くなってしまった。檀家のことを何も教わらないまま、私は住職になりました。当初は肩ひじ張つて突っ走っていましたが、幸いに檀家さんの協力もあり、住職として経験を積むことができました。

自分にとつての「これで十分」を知ることが大事

